

# 北部・高冷地における「こいもみじ」の湛水直播栽培

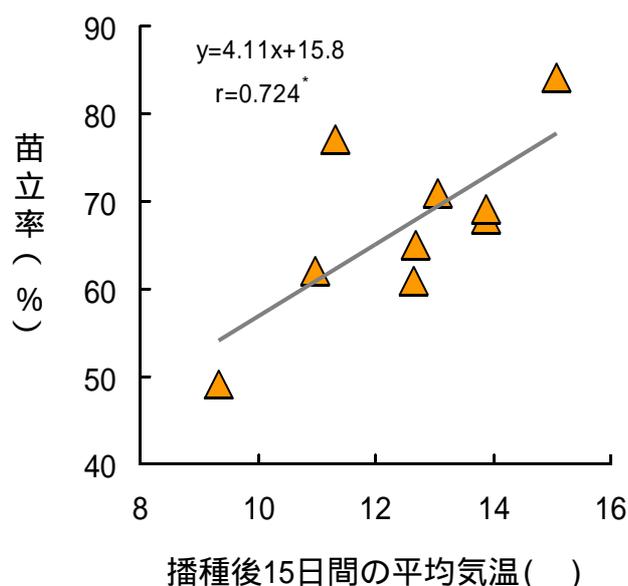
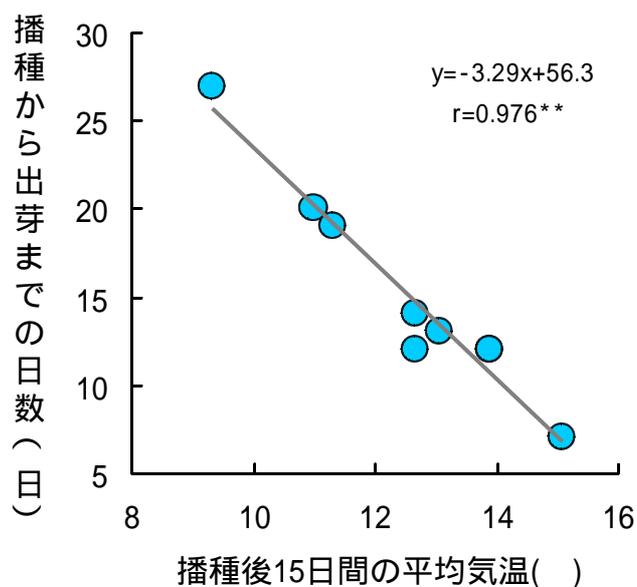
直播適性に優れる「こいもみじ」によって、県内の北部・高冷地域においても、水稲の湛水直播栽培が可能で、省力化・作期分散を図ることができます。

## 👉 技術のポイントは

- ❖ 適用地域は標高350～500mです。
- ❖ 播種量は乾粒で10a当たり3kgとします。
- ❖ カルパーを乾粒重量に対して1～2倍量をコーティングします。
- ❖ 播種時期は4月中旬～5月中旬が適当です。
- ❖ m<sup>2</sup>当り苗立数60～70本で、10a当たり収量550～600kg、検査等級1等が得られます。倒伏も発生しません(大朝町における平成11～12年の試験から)。
- ❖ 4月下旬の播種で出穂期は8月上旬(大朝町、一般の5月上旬の移植栽培では7月下旬)となり、収穫作業の分散が可能です。

## 芸北町における現地試験の状況

(播種後2か月, 2001年6月29日)



播種後15日間の平均気温が高いほど、播種から出芽までの日数は短くなります

播種後15日間の平均気温が11 を超えると、苗立率は60%以上となります